



2025年大阪・関西万博パビリオン
「電力館 可能性のタマゴたち」ユニフォームデザインを決定
～パビリオンの外観をモチーフに、様々な「可能性」を表現～

2024年9月3日

電気事業連合会

電気事業連合会は、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に出展するパビリオン「電力館 可能性のタマゴたち」において、来館されるお客さまを迎えるスタッフのユニフォームデザインを決定しましたので、お知らせいたします。



<アイテム>

- ・ ジャケット2種（フルジップタイプ、ボタンタイプ）
- ・ オーバーシャツ
- ・ パンツ
- ・ 帽子

<デザインのポイント>

1. パビリオンの外観との親和性

ユニフォームは、パビリオンの外観との親和性を重視し、グレーをメインとしたモノトーンカラーで統一するとともに、パビリオンの特徴である、様々な形の平面を組み合わせた「ボロノイ^{*1}構造」をデザインに採用しています。（ジャケット、オーバーシャツ、帽子）

2. 様々な「可能性」の表現

オーバーシャツは、生地のカット位置によって一枚ずつ模様が異なることも特徴の一つです。ボロノイ模様という統一性は持たせながらも、様々な年代・性別・体形のスタッフそれぞれが異なる表情のユニフォームを着用することで、パビリオンのテーマである様々な「可能性」を表現しています。

3. 環境への配慮

軽量・速乾性に優れ、手入れの容易な再生ポリエステル素材を採用。使用後はユニフォームのリサイクルシステム「ECOLICE（エコリス）」を通じて、高品位の固形燃料であるRPF（Refuse derived paper and plastics densified Fuel）^{**2}に加工して製紙会社等に提供するなど、持続可能な社会・循環型社会を推進します。

<デザイン・制作協力>

- ・ デザイン：成清 良太（なりきよ りょうた）氏
※成清氏は、2005年日本国際博覧会（愛・地球博）の会場サービスアテンダントのユニフォームデザインを担当
- ・ 制作：丸十服装株式会社（大阪府大阪市）

電気事業連合会は、多くの方々に「電力館 可能性のタマゴたち」へお越しいただき、すべての来館者に楽しんでいただけるよう、引き続き準備を進めてまいります。

以 上

- ※1 ボロノイ図は、平面上にランダムに配置された複数の点同士の距離によって領域を分割した図で、それぞれの領域が多面的な幾何学模様を生み出す。骨組みが不規則に結合することで多様な形の空間が構築でき、建築の意匠や都市デザインに応用されている。キリンの模様やトンボの羽など、ボロノイ図に似た幾何学模様は自然界にも見られる。

- ※2 主に産業系廃棄物のうち、マテリアルリサイクルが困難な古紙や廃プラスチック類を主原料とした高品位の燃料。固形で密度が高いため、貯蔵特性や輸送効率にも優れ、製紙会社や鉄鋼会社において、石炭やコークス等の化石燃料の代替として使用されている。